

# 環境活動レポート

2004年 1月16日

株式会社アカサカテック

## 企業理念

お客様のニーズ、社会の変化に対応し、  
常に自己を改革する。

## 環境方針

株式会社アカサカテックは、事業活動を遂行するにあたり、  
地域性及び環境への関連を考慮し、  
次の環境方針を定め環境保全に対する自主的な取組を展開する。

1. 環境活動評価プログラムに積極的に参加し、これを運用・維持する。
2. 事業活動による直接及び間接的な環境への影響を的確にとらえ、精査し、環境保全活動の目標を定め、これを実行する。
3. 内部環境監査システムを実施し、継続的な改善、及び環境管理の維持向上に努める。
4. 環境に関する法規制及びその他の同意する要求事項を遵守し、地域社会との調和に努める。
5. 社内教育プログラムを実施、全社員を啓発し、一社会人としての環境保全意識の向上を図る

2001年 7月11日

神奈川県横浜市金沢区福浦1 - 1

横浜金沢ハイテクセンター17f

**株式会社アカサカテック**

代表取締役 **加瀬 順一**

## 1. 事業活動の概要

### 1) 事業者名及び代表者名

株式会社アカサカテック

代表取締役社長 加瀬 順一

### 2) 所在地

神奈川県横浜市金沢区福浦1-1 横浜金沢ハイテクセンター 17f

### 3) 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

責任者 経営企画室 室長 宮下 譲司

担当者 総務グループ グループリーダー 海老原あかね

連絡先 電話 045-789-4041 FAX 045-789-4045

環境レポート公表URL <http://www.akasakatec.com>

### 4) 事業の内容

各種システムソフトウェア、ハードウェアの設計・開発・製造・販売・保守  
情報通信サービス

### 5) 事業の規模活動規模

活動規模	単位	2001年度	2002年度	2003年度
売上高	百万円	458	583	242
従業員人	人	25	20	19
床面積	m2	811	811	811

## 2. 環境目標とその実績

### 2.1 環境への負荷実績 (目標の達成状況)

当社は、2001年度1年間で調査/収集した各項目のデータを基準とし、次年度より毎年度目標を以下のように掲げ環境活動に取り組んできた。

当社の業務内容は、ソフト開発及び情報通信で、環境負荷として、主に考えるものは、二酸化炭素排出量、コピー用紙使用料、廃棄物発生量が該当する。これらのことより環境負荷として数値としてえたものは下表のとおりである。

		2001年度	2002年度	2003年度
二酸化炭素排出量	総量(Kg-CO <sub>2</sub> /年)	62112 実績	61801 (0.50%)	61646 (0.75%)
コピー用紙使用料	総量(Kg/年)	2001年度の使用料599KGに対して 2005年までの5年間に10%削減		
廃棄物発生量	総量(Kg/年)	2001年度排気量2868に対して、 次年度より3%、6%、9%の削減		

このうち、データを記載していない環境負荷と理由は次の通りである。

【水使用量】

・当社の使用する水は、生活用水であり、入居ビル管理者が管理しているため、使用量の数値的な把握ができず、目標が定められず節水の励行にとどまっている。

【原材料】

・当社は、生産活動をしておらず、原材料の使用はない。

【包装材料】

・当社は、商品の包装紙を使用しているが、包装紙はその他紙類として管理している。

【水質汚濁物質】

・当社は、生活用水以外の水の使用はなく、生産活動における排水は出ない。

【化学物質】

・当社は、化学物質の使用はない。

当社における今年度を含めて過去3年間にわたる実績は以下のとおりである。

負荷項目		2001年度	2002年度	2003年度
二酸化炭素排出量	総量 (Kg-CO <sub>2</sub> /年)	62112 実績	61968 (0.23%)減	46064 (25.84%)減
コピー用紙使用料	総量 (Kg/年)	599 実績	623 (4.01%)増	486 (18.89%)減
廃棄物発生量	総量 (Kg/年)	2868 実績	2161 (24.65%)減	1893 (34.00)減

- ・ 2002年度の二酸化炭素排出量については、0.23%低減と目標である0.25%にわずかに届かなかった。2003年度前年度の活動内容の反省に立ち、意識を強め徹底的な低減活動を行なった結果25.84%減の実績となった。これは室内の温度管理の徹底、車両運転マナーの監視管理などによる結果であると考える。
- ・ コピー用紙使用量については、2002年度4.01%増の結果となったが、これはISO9001認証取得活動に伴う関係文書作成の影響と、新商品に伴う販売用カタログや販促ツールの作成が増えたことが原因である。2003年度は18.89%減とし、累計では14.88%減としている。
- ・ 廃棄物発生量の基準となる2001年度には大掛かりな倉庫整理が行なわれたため実績数値がかなり高い。そのため次年度の達成数値が高く評価されているが2003年度の実績を再基準として目標を立てる必要があると考える。

## 2.2 環境目標

### (1)今年度以降の目標

当社は、今年度以降5年間の二酸化炭素排出量、コピー用紙使用料、廃棄物発生量の低減目標を下記のとおり定める。

水使用量に関しては、今年度中に数値データの取得方法を勘案するとともに、併せて更なる節水励行を実行するものとする。

負荷項目	(基準年2003年)	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年
二酸化炭素排出量	低減率	0.25%	0.50%	0.75%	1.00%	1.25%
	総量 (Kg-CO <sub>2</sub> /年)	45949	45834	45719	45603	45488
コピー用紙使用料	低減率	2.00%	4.00%	6.00%	8.00%	10.00%
	総量 (Kg/年)	476	467	457	447	437
廃棄物発生量	低減率	3.00%	6.00%	9.00%	12.00%	15.00%
	総量 (Kg/年)	1836	1779	1723	1666	1609

(2) 環境目標の担当部門及び責任者

総務グループ グループリーダー 海老原あかね

2.3 環境への取組状況

(1) 環境保全の取組チェック結果

環境省発行の「環境活動評価プログラム」の環境保全の取組の自己チェックに準じて環境への取組について自己チェックした結果の概要は次の通りである。

- ・二酸化炭素の排出抑制、大気汚染の防止に関する項目の施策実施度合いは、比較的進んでいる。
- ・環境保全のための仕組み・体制の整備も過去3年間順調に進捗している。

以下、取組チェック結果を次に示す。

施 策	チェック結果の点数		満点の場合の点数		施策実施度合 (%)	
	前回	今回	前回	今回	前回	今回
<b>1. 事業活動へのインプットに関する項目</b>	前回	今回	前回	今回	前回	今回
1) 省エネルギー, 新エネルギー使用の拡大	12	24	98	98	12	24
2) 省資源, グリーン購入	29	54	72	72	40	75
3) 節水, 水の効率利用	5	10	10	10	50	100
小 計	46	88	180	180	26	49
<b>2. 事業活動からのアウトプットに関する項目</b>	前回	今回	前回	今回	前回	今回
1) 二酸化炭素の排出抑制, 大気汚染の防止	15	30	30	30	50	100
4) 廃棄物の排出抑制, リサイクル, 適正処理	69	138	168	168	41	82
6) 輸送に伴う環境負荷の低減	12	24	24	24	50	100
小 計	96	192	222	222	43	86
<b>3. 環境経営システムに関わる項目</b>	前回	今回	前回	今回	前回	今回
1) 環境保全のための仕組み・体制の整備	87	174	174	174	50	100
2) 環境教育、環境保全活動の推奨等	17	34	46	46	37	74
3) 情報提供, 社会貢献, 地域の環境保全	6	12	12	12	50	100
4) エコビジネス, 技術開発	6	12	12	12	50	100
小 計	116	232	244	244	48	95
<b>全 項 目 合 計</b>	<b>258</b>	<b>512</b>	<b>646</b>	<b>646</b>	<b>40</b>	<b>79</b>

表の見方：

自社に関係する環境保全に関する個々の施策毎に、おおむね実施している場合は2点、一部実施している場合は1点、未実施の場合は0点として、各施策毎に集計し、環境保全に関する施策の実施度合いを示した。

また、各取組チェック項目の効果に応じ、3点～1点の重み付けを行った。

自社に関する施策を全て、おおむね実施している場合は、施策実施度合い100%となる。

## (2)環境保全効果別実施状況

自己チェックした環境保全に重大な効果がある項目の実施状況は次の通りである。

施 策	概ね実施項目数		一部実施項目数		未実施項目数	
	前回	今回	前回	今回	前回	今回
<b>1. 事業活動へのインプットに関する項目</b>	前回	今回	前回	今回	前回	今回
1) 省エネルギー、新エネルギー使用の拡大	0	4	4	0	9	9
2) 省資源、グリーン購入	0	3	3	0	2	2
3) 節水、水の効率利用	0	1	1	0	0	0
小 計	0	8	8	0	11	11
<b>2. 事業活動からのアウトプットに関する項目</b>	前回	今回	前回	今回	前回	今回
4) 廃棄物の排出抑制、リサイクル、適正処理	0	7	7	0	4	4
6) 輸送に伴う環境負荷の低減	0	1	1	0	0	0
小 計	0	8	8	0	4	4
<b>3. 環境経営システムに関わる項目</b>	前回	今回	前回	今回	前回	今回
1) 環境保全のための仕組み・体制の整備	0	19	19	0	0	0
2) 環境教育、環境保全活動の推奨等	0	3	3	0	2	2
3) 情報提供、社会貢献、地域の環境保全	0	2	2	0	0	0
4) エコビジネス、技術開発	0	2	2	0	0	0
小 計	0	26	26	0	2	2
全 項 目 合 計	0	42	42	0	17	17

・省エネルギー、新エネルギーについては、利用可能なものについては検討し、高額でない限り利用する。

・廃棄物の排出抑制については、新聞紙、ダンボールなどの再利用を促進する。

## 3. 主要な環境活動計画の内容

当社の主要な環境保全に向けた具体的な取組内容を以下に示し、活動計画は別紙活動計画書に示す。

### (1)数値目標を達成するための取組

#### 二酸化炭素排出量

- ・ 冷暖房温度管理、夏28、冬23 の徹底
- ・ 無人スペースの照明消灯の推進
- ・ 退社時のパソコンモニター電源Offの習慣付け
- ・ 効率のよい運転の促進

- ・ アイドリングゼロ、急発信ゼロ、急ブレーキゼロ、経済速度での運転の励行

#### コピー用紙使用料

- ・ 社内文書裏紙利用の推進
- ・ 書類のPDF化、社内電子閲覧の奨励

#### 廃棄物排出量

- ・ ダンボール、新聞紙の梱包材としての再利用の促進
- ・ 紙類の分別回収の促進

### (2) その他の取組

#### グリーン購入への取組

- ・ コピー用紙の全面再生紙化
- ・ エコマーク文房具購入比率の拡大

#### 社内啓発活動の取組

- ・ E A 2 1 推進ワーキンググループの結成
- ・ 四半期ごとの報告・勉強会の開催

## 4. 環境活動の取組結果の評価

### (1) 数値目標を達成するための取組

#### 二酸化炭素排出量

- ・ 夏28、冬23の冷暖房温度管理については電力使用料前年比7.5%減で、概ね実行できた。
- ・ ガソリン使用料は前年比31.5%減と運転日報の活用が効果をもたらした。

#### コピー用紙使用料

- ・ 社内のコピー機、プリンターに裏紙専用トレイをもうけたことにより、裏紙使用が徹底され、コピー用紙使用料は前年比22.0%減の結果となった。

#### 廃棄物排出量

- ・ 新聞の購読紙を1紙増やしたことで、梱包材として使用できる出荷物が減少したため、新聞紙の処分量が前年比29.1%と増加した。これらはビル管理者の分別回収による再資源化として処分された。

#### グリーン購入への取組

- ・ グリー購入比率前年比24.6%増とした。

## 5. 環境関連法規への違反、訴訟などの有無

環境関連法規への順守状況は、年度上期および下期はじめにチェックリストで確認し、結果は次の通りである。

内 容	上期結果	下期結果
法律違反の有無	無	無
訴訟の有無	無	無